



おやこつうしん

岐阜市子ども・若者総合支援センター

“エールぎふ”親子教室 (2歳児)



令和3年10月

親子教室の繰り返しの活動の中で、お子さんも見通しを持ち、自分でやろうとする姿が出てきています。その反面「〇〇して」と大人が言うと、「イヤ!」「じぶんで!」など、自己主張する姿も増えてきました。今回はこの時期の子どもの心の成長についてお伝えします。

～自我の育ちには“気持ちの受けとめ”が大切!～

2～3歳の子どもたちは、自分と人とは違うことに気付き、「自分でやりたいようにやりたい」という“自我”を持ち始めます。しかし、いざ自分でやるのは不安になり、思いが揺れる時期でもあります。子どもは、そういった自分の不安や心の葛藤などを自覚してことばで表現するのは難しく、「イヤイヤ」などの反抗や、「やって!」「抱っこ!」と甘えなどで表現します。そんな時は子どもの気持ちを一旦受けとめてみましょう。

例) やったことのない、初めての体操の場面。やらないと主張して座り込んだり、抱っこを求めたりする。→緊張したり、やりたいけどどうしようかな…と迷ったりしているのかもしれませんが。まず、そんな子どもの姿を観察してみます。周りの様子をよく見ているようなら、思い切って親子で見学タイムにしてみましよう。見ることを楽しむのも参加になります。「楽しそうだね」「お家でやってみようか」などと子どもの思いを受けとめ、気持ちを代弁してあげましよう。

子どもの気持ちを十分に受けとめたら…



様子を見て「〇〇する?△△にする?」と聞いてみましょう。子どもが自分で決めることは、やる気を引き出します。特に、歯みがきや着替えなど生活の場面は“やる-やらない”と聞くよりも「どっちからやる?」などと、やることを前提の選択肢を与えることがポイントです。

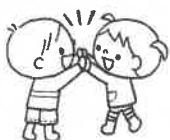
また、不安な気持ちを乗り越えて行動を起こせた時は、がんばった気持ち、やろうとした気持ちを受け止め、たくさん褒めてあげましよう。自我の表れの「イヤイヤ」を心の成長を促す大切なステップととらえ、前向きに考えてこの時期を乗り切っていきましょう!



～“ありがとう”って言われるとうれしいな!～

うれしいという気持ちは、大好きな大人に受けとめてもらうことによって、さらに増大し、ますます「ひとりでやってみようかな」という気持ちや自信を育てます。親子教室の片づけの場面でも、先生に「ありがとう」と声をかけられると、「もっともっと運ぼう!」というような姿が見られます。「じょうず」「できたね」という評価を示すことばと違い、「ありがとう」という感謝のことばは、子どもに“役立つ自分”を実感させ、気持ちを前向きにし、もっと褒めてもらいたいと、大人への関心を深めます。

子どもは大人のすることをよく見えています。毎日の生活や家事の中で、子どもが関心を示す安全なものを大人が子どもに経験させてあげましよう。例えば、洗濯物を渡してもらう、テーブルを布巾でふいてもらうなどのお手伝いが、おうちでもできるといいですね。やってくれた時は、すかさず「ありがとう」を忘れずに!



この頃の子どもの成長の姿を理解することで、大人も子育てに「見通し」を持つことができます。「自分でやりたい」と「認められたい」という思いに揺れ動きながら、大好きな大人にしっかり気持ちを受け止めてもらうことによって、子どもたちは人間らしく生きる力をつけていくための『自分作り』をしていきます。